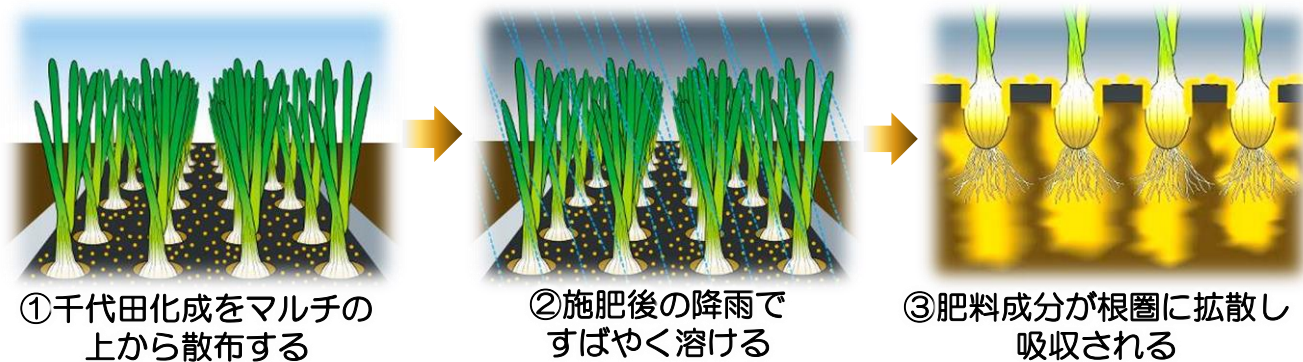


マルチの上から適切な追肥を!!

本年もあっという間に年末を迎えつつありますが、12月に入っても平年よりも気温の高い日が続いています。
家庭菜園でもお馴染みの、タマネギや、ニンニクなど年内の追肥は行いましたか？この暖かい気温が続いていることで、生育が順調だと思われがちですが、よく見ると新葉が黄化していることがあり、適切な追肥をすることが必要となります。暖かい時ほど肥料切れには要注意です。
マルチ栽培をされている方も多いと思いますが、**千代田化成**は素早く溶ける特長を生かし、マルチの上からでも適切な施肥を行うことができます。

★マルチの上からタマネギの追肥★



タマネギは栽培期間が長いだけに、追肥がとても重要になります。
寒い時期でも、サッと溶けて、素早く効く**千代田化成**の特長を活かした施肥方法です。

★千代田化成がサッと溶ける様子★



施肥日: 令和4年12月9日
施肥量: 20g/m²
(チッソ3g/m²)

マルチの穴にも、サッと溶けるためしっかり入っていきます!!



翌朝



冬期でも翌朝には、朝露で溶ける!

千代田化成[®] 産地レポート

温州みかんを長年育ててきて

三重県最南端は南紀みかんの一大産地。
大久保さんは約50年、温州みかんを栽培。
今は戻ってきた息子さんと2人での作業。
大変な作業も、**千代田化成**の施用で作業軽減できています。



みかん農園の様子(2023年12月6日撮影 場所: 三重県御浜町)

生産者の声(大久保さん)

千代田化成は春肥と秋肥で使用しています。
JAの営農指導では、春肥・秋肥は低成分の配合肥料の施肥8袋/10a。
千代田化成だと、その半分の4袋/10aで済みます。
2人で約1haの面積の施肥作業も非常に楽です。
また雨が少ないくても、少ない水分で良く効きます。

大久保さんの千代田化成施肥例

★春肥(2~3月): 80kg/10a

施用目的: 翌年の母枝になる新梢の充実や幼果の初期肥大が期待できます。

★秋肥(11月): 80kg/10a

施用目的: 収穫後の樹勢回復や耐寒性向上。吸収が早く素早い養分蓄積に役立ちます。

生産者の声(奥田さん)

千代田化成はJAの営農指導で花肥として使用しています。
約25haの面積に、興津早生、宮川早生、大津など多品種を育て、表年と裏年(隔年結果)の収量に差がない様に育てています。



奥田さんの千代田化成施肥例

★花肥(4~5月): 20kg/10a

施用目的: 樹勢の維持。着果量の多い年は花芽で養分が多く消費されるが、千代田化成であれば、素早く養分が吸収され樹勢を維持できる。



収穫されたみかんは、
・糖度・酸度のバランスが取れている
・外皮が薄く、浮皮がない
と大好評です。